

講義日程・時間

8月 22 日 木 曜日

1 限目

1. 授業科目名	学校をめぐる近年の状況変化と教育政策の動向		
2. 担当教員名	秦 和彦		
3. 授業の概要	<p>近年、学校では、いじめ、不登校、暴力行為等の児童・生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、外国人児童・生徒への対応、ICT活用の必要性の増大、要保護・準要保護児童・生徒への対応等、取り組むべき諸課題が急増している。</p> <p>また、「知識基盤社会」の進展等に対応すべく、基礎的・基本的な知識・技能の修得とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力や判断力、表現力等の育成、協働的な学習、家庭・地域との連携協力等が求められている。</p> <p>こうしたことから、教員の資質能力の向上、質の高い教員の確保が課題となり、平成24年5月、中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会は「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(審議のまとめ)」を公表した。</p> <p>この授業では、上記のような学校を巡る近年の状況変化と諸課題について講義し、中教審のめざす今後の教員政策の方向性について検討していきたい。</p>		
4. 到達目標	学校を巡る近年の状況変化と諸課題および今後の教員政策の方向性を理解する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<p>1. 学校を巡る近年の状況変化と諸課題</p> <p>2. 中教審への諮問と特別部会の「審議経過報告」</p> <p>3. 中教審特別部会の「審議のまとめ」</p> <p>4. 今後の教員政策の方向性</p>	講義
6. テキスト・参考文献等	特になし。資料は当日配布する。		
7. 成績、評価方法・基準	<p>100点満点の論述式筆記試験を行い、5段階で評価する(90点以上:A、80点~89点:B、70点~79点:C、60点~69点:D、60点未満:不合格)。</p> <p>試験に当たっては、配布資料、ノート、参考資料等の持ち込み参照を可とする。</p> <p>評価基準:論点が明確であるか、用語は正確であるか、論旨が明快であるか、論拠が正確または妥当であるか。</p>		
8. 特記事項	特になし。		

講義日程・時間

8月22日 木曜日

2 限目

1. 授業科目名	『子どもの心』をはぐくむための関わり方		
2. 担当教員名	岩橋宗哉・吉岡和子		
3. 授業の概要	<p>私たちが一人ひとりの子どもの教育ニーズに応えて行くためには、指導的な関わりと同時に援助的な関わりが必要である。その2つの関わりは互いに補い合いながら私たちの教育的な関わりを形作っている。しかし、子どもたちへの関わりがうまくいかないと感じる時、私たちは、往々にして、私たちの視点から指導的な関わりのみを強めがちである。援助的な関わりとは、子どもたちの視点に立って、子どもたちが様々な場面で出会う問題状況や課題をどのように感じているのを理解し、彼ら自身が解決していけるように関わることである。この授業は、ワークにおける体験を通して、『子どもの心』をはぐくむための援助的な関わり方の重要性を再認識する機会となることを目指している。</p>		
4. 到達目標	『子どもの心』をはぐくむための援助的な関わり方の重要性を自らの体験を通して再認識する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<p>「こころ」とは 「はぐくむ」ことについて 「指導的関わりと援助的関わり」 「はぐくむ関わり」の視点」</p> <p>「聴くことの大切さを学ぶ」 「聴いてもらうことの良さを体験する」</p>	講義とワーク
6. テキスト・参考文献等	特になし。		
7. 成績、評価方法・基準	テスト(100点満点のテストで90点以上A、80点から90点B、70点から80点C、60点から70点D、60点未満は不合格)		
8. 特記事項			

講義日程・時間

8月 22 日 木 曜日

3 限目

1. 授業科目名	特別支援教育の国政的動向と日本の取り組み		
2. 担当教員名	一木玲子		
3. 授業の概要	<p>2007年より特別支援教育が始まったが、まだまだ問題が山積している状況がある。一方、同時期に国連では障害者権利条約が成立し、インクルーシブ教育を原則とすることが国に求められている。障害者権利条約のインクルーシブ教育からみると特別支援教育はどのように評価できるのか整理する。また、発達障害について取り上げ、発達障害をどのようにとらえ、具体的にどのような体制が求められているのか検討したい。</p>		
4. 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国連障害者権利条約より、国際人権の到達点を知る。 ・発達障害児の教育的な考え方が分かる。 		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・国連障害者権利条約におけるインクルーシブ教育について ・発達障害児の定義と教育なとらえ方について 	講義形式で、一部DVDを視聴する。
6. テキスト・参考文献等	授業時に配布する		
7. 成績、評価方法・基準	試験による		
8. 特記事項	なし		

講義日程・時間

8月 23 日 金 曜日

1 限目

1. 授業科目名	ペアレントトレーニングの教育現場への応用	
2. 担当教員名	福田恭介	
3. 授業の概要	<p>行動療法の考えに基づくペアレントトレーニングは、自閉症、注意欠陥・多動性障害 (Attention Deficit/Hyperactivity Disorder: AD/HD)、学習障害 (Learning Disability: LD) などの発達障害児の親に対して、子どもの行動を観察・記録することによって、親のストレスを軽減させ、養育スキルを伸ばし、子どもの問題行動を減らそうという取組である(福田, 2011)。この取組は、教育現場において、子どもと関わって教師への支援にも応用可能であると考えられる。なぜなら、教師は子どもの行動を観察・記録できる立場にあり、記録されたデータから子どもの問題行動を減らすための手がかりを見つけることができるからである。この講義では、子どもの行動を観察・記録することによって、どのような手がかりを見つけることができるのか、子どもにどのような対応をしていけばよいのかを話していく。</p>	
4. 到達目標	<p>(1) 子どもの行動を観察・記録することができる。 (2) 子どもの行動及び教師の言葉かけの観察・記録結果から子どもへの対応の手がかりをつかむことができる。</p>	
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容
	1	<p>特別支援教育へのペアレントトレーニングの考え方の応用について、視覚的な資料を用いて説明していく。</p>
		授業方法
		講義
6. テキスト・参考文献等	<p>「ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援」 福田恭介 (編著) 2011 あいり出版</p>	
7. 成績、評価方法・基準	<p>テスト(100点満点のテストで90点以上A、80点から90点B、70点から80点C、60点から70点D、60点未満は不合格)</p>	
8. 特記事項		

講義日程・時間

8月 23 日 金 曜日

2 限目

1. 授業科目名	自傷行為等のある生徒への支援		
2. 担当教員名	小嶋秀幹		
3. 授業の概要	自傷行為のある生徒の生活背景や精神病理を概説し、そのような問題行動を持つ生徒に教員が学校現場でどのように関わっていくかについて、その基本的なスタンスを精神医学的な観点から解説する。親しい友人(生徒)がこの問題に巻き込まれることしばしばあるため、友人の関わり方にも言及する。		
4. 到達目標	自傷行為等の問題行動をもつ生徒の生活背景と精神病理、教員や友人(生徒)が関わっていく上でのスタンスを理解する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	自傷行為等のある生徒への支援	講義
6. テキスト・参考文献等	特になし。		
7. 成績、評価方法・基準	テスト(100点満点のテストで90点以上A、80点から90点B、70点から80点C、60点から70点D、60点未満は不合格)		
8. 特記事項			

講義日程・時間

8月 23 日 金 曜日

3 限目

1. 授業科目名	青少年の教育と成人の学習 ～国際人権をめぐる動向から～		
2. 担当教員名	中藤洋子		
3. 授業の概要	国際的な成人教育論や人権関連文書を中心に、青少年の教育と成人の学習の関わりについて概観し、親や教師を中心にした成人の学習の課題を考察する。		
4. 到達目標	国際的な成人教育論、人権論の視点から、成人の学習が青少年の教育にもつ意味と日本における課題を理解する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	国際的な生涯教育論、人権論の動向 成人の学習と教育(観)の変革(P・ラングラン、P・フレイレ) 子どもの権利の実現と成人の学習の課題(子どもの権利条約、女性差別撤廃条約及びその関連文書より) 人権としての成人の学習(学習権宣言、ハンブルク宣言、ベレン行動枠組み)	講義
6. テキスト・参考文献等	参考文献 中藤洋子著 『女性問題と社会教育～ジェンダー視点に立つ成人の教育・学習論への試み』(ドメス出版、2005年)、 『社会教育の権利と平等～ジェンダーと国際人権の視点から』(同上、2010年)		
7. 成績、評価方法・基準	最後の30分で試験をします。到達目標の理解ができていれば合格とします。		
8. 特記事項			